



鹿児島郷友会

先の大戦の敗戦から日本の再生を期すために (大東亜戦争メモランダム300話を俯瞰・総括し)

令和5年7月16日(日)

(公財)大東亜慰霊協
理事長 山下輝男

1



鹿児島郷友会

- 2025年 戦後80年
大東亜戦開戦から88年
(国力上無謀な戦いを挑んだ、軍が政治を壟断したと断じるだけで良いのか?)
- 戦後80年、日本は何を反省したのか
先の大戦の教訓は何か
日本人とは何だったのか
- 敗戦から学ぶもの多し



日本再生の処方箋・方向性

2



説明項目

鹿児島郷友会

- 1 大東亜戦争について
- 2 敗因に迫る14の視点
 - ①持たざる国の国家戦略
 - ②国防方針
 - ③政軍関係
 - ④同盟戦略
 - ⑤国家情勢分析
 - ⑥国民感情
 - ⑦戦争指導計画
 - ⑧初期進攻後の戦争指導
 - ⑨戦争終結機会の捕捉
 - ⑩ドクトリン開発等柔軟性
 - ⑪日本の軍事組織の弱点
 - ⑫陸海軍の対立
 - ⑬政略
 - ⑭国家のリーダー
- 3 日本の敗因等総括
- 4 日本再生の為に
- 5 大東亜慰霊協の紹介等

3



大東亜戦争について

鹿児島郷友会

- 1 先の大戦の呼称について(1話)
太平洋戦争、アジア太・平洋戦争、大東亜戦争、15年戦争 昭和戦争 等々
「大東亜戦争」との呼称決定(1946/12/12 閣議決定)
日本自らが主体的に考えて総括する意味においても適切
 - 2 支那事変を含め大東亜戦争と呼称
(1937/7/7 ~ 1945/8/15?)
 - 3 戦争目的(2話) 開戦の詔勅と政府声明(1941/12/8)
自存自衛とアジア開放
- * 現日本政府
「大東亜戦争」との語彙の使用を禁止していない。
統一されていない、文脈によるとしている。
政府としての定義なし

4



敗因に迫る14の視点

鹿児島郷友会

- 2 敗因に迫る14の視点
 - ①持たざる国の国家戦略
 - ②国防方針
 - ③政軍関係
 - ④同盟戦略
 - ⑤国家情勢分析
 - ⑥国民感情
 - ⑦戦争指導計画
 - ⑧初期進攻後の戦争指導
 - ⑨戦争終結機会の捕捉
 - ⑩ドクトリン開発等柔軟性
 - ⑪日本の軍事組織の弱点
 - ⑫陸海軍の対立
 - ⑬政略
 - ⑭国家のリーダー

5



視点1: 持たざる国の国家戦略

鹿児島郷友会
(257話)

- 明確な国家戦略が確立されていたか?
- 1 日本の地政学的与件と戦略方向
大陸辺縁弧状列島、資源小国、四面環海、大洋
朝鮮半島は日本の脇腹に突きつけられた短刀
大陸とは無縁では居られない宿命
戦略的方向性
①大陸に進出
②大洋に活路
 - 2 『帝国日本の野望』論?
共同謀議:支那侵略と世界征服
その根拠は「田中上奏文」(1927 田中義一首相が天皇に奏聞)
明らかな偽書だが、根強く流布され信じられている!
 - 3 国家戦略の存在・非存在

6

鹿児島郷友会
(296 話)

視点2: 国防方針の妥当性等

◎ 帝国国防方針はあったが、明確な国家戦略文書はあったのか？

(参考: 安保3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画) R4年12月)

◎ 帝国国防方針 (M40、T7、T12、S11(1936)の計4回改訂)
1936(S11)改訂経緯
6/3 国防方針
6/30 国策大綱(国策の基準)
8/7 外交方針
1940/7/26 基本国策要綱(大東亜共栄圏建設を基本に)

◎ 陸海軍の戦力造成の根拠=国防方針

以下独言
・陸軍の悲劇 対ソ準備した軍を南方戦線転用
・海軍の愚 伝統的邀撃帯構想を放擲して短期決戦追及

7

鹿児島郷友会
(21,205,210話)

視点3: 政軍関係が歪

問題認識

- 日清・日露戦争の際には政軍関係は良好
- 昭和期の戦争に際はどうだったのか
- ◎ 明治システムの成功体験の呪縛・盲信
→修正も変更も出来ず

問題点

- ① 統帥権の独立
(統帥と国務の連携模索は)
- ② 軍部大臣武官制
- ③ 内閣制度

8

鹿児島郷友会
(102,182,192話)

視点4: 同盟戦略は適切だったのか

◎ 日英同盟廃止(1923/8/17)後の同盟対象国は？ 米(英)、蘇、独、中

① 米英は？ 逐次に反米英感情増幅(視点6参照)

② ソ連は
国防方針との関係
対日政策
* 以上の観点から同盟国家足り得ない

③ 中華民国との和解提携の可能性は(日中提携は欧米にとって悪夢？)
・日本の支那事変不拡大が失敗したのは何故か？
『第二次上海事変(1937/8/13~)で支那事変が中支に拡大
(第二次上海事変: 独の支援を受けて近代化された中国(国民党)軍が、上海租界地に奇襲的に攻撃)』
・中国の対日不信

* 結局消去法により「独」のみ

9

鹿児島郷友会
(125, 156, 227話)

視点5: 国家としての情勢分析は適切だったのか

対象国等に関する情勢分析

- 欧州情勢は複雑怪奇と平沼内閣総辞職(1939/8/28)
* 自らの稚拙さを露呈
- 米国の参戦防止策はなかりしか？
米英可分・不可分論争etc
日米遊戦の途は？
- 三正面对処戦争の無謀さ
- 知米派多数存在 排除、知見の活用なし
- 内閣情報室創設(1940/12/6)

10

鹿児島郷友会
(309話)

視点6 対米(英)感情と開戦決意

国民感情は国策に如何なる影響を与えるのか？その変遷は？

- 1 英米協調路線 1920年代までは 英米協調が基軸
- 2 英米に対する不満の蓄積
人種差別撤廃案の否決、排日移民法、軍船条約の不平等強要
満州事変リットン調査団対日干渉
- 3 支那事変の中支への拡大に伴い対英感情の転換
天津租界封鎖事件 → 反英大会頻繁開催
対米感情は抑制的 パネー号事件、アストリア号による遺骨環送
日米通商航海条約破棄通告や援蒋問題はあったが、
日米通商航海条約破棄通告や援蒋問題はあったが、
- 4 日米交渉の不調と米国の対日制裁
独の快進撃や同盟締結等⇨日米交渉の不調
* マスコミの対米英報道強硬に(マスコミの戦争責任も問われるべき)

* 国策と国民感情 相互にシンクロして開戦決意の一因に
* 日米間には具体的な利害対立はなく、「東亞新秩序」と「門戸開放・機会均等」の原則論の対立が根本
* 大衆ポピュリズムの跋扈

11

鹿児島郷友会
(25,59,87,96,125,180,185,215,222,250話)

視点7: 戦争指導計画の適切性は

戦争指導計画
唯一の計画(グランドデザイン): 「対米英蘭戦終末促進に関する腹案」(1941/11/5 連絡会議決定) (以下「腹案」と称す)

◎ 腹案の概要

- ・南方要域攻略
- ・自存自衛態勢構築
- ・蒋政権屈服
- ・独伊との連携で英の屈服 → 米の継戦意思喪失
- ・長期持久態勢 あらゆる手段で米海軍勝致撃滅

◎ 腹案が依拠せる秋丸機関の研究結果
「英米合作経済抗戦力調査」(1941/7)

参考: 秋丸機関(1939/9)陸軍省戦争経済研究班
秋丸陸軍中佐を長とし、錚々たる経済学者を集めて敵味方の経済戦力分析し、弱点把

12



視点8: 初期進攻作戦後の戦争指導の破綻

◎当初の戦争指導構想 (92,190話)
初期進攻後に、長期持久態勢の確立 戦略守勢への移行
初期進攻作戦後の進出域(1942年夏頃) (次図)

◎初期進攻作戦後の戦争指導構想の案
・当初の構想通りに戦略守勢に移行
or・初期作戦の戦果を拡張

◎陸海軍対立
陸軍:当初案の通り
海軍:戦果拡張 軍令部=豪州方面占領、遠征態勢確立
連合艦隊=中部太平洋早期決戦(ミッドウェー)

◎今後探るべき戦争指導の大綱(1942/3/7)
陸海軍の意見調整の結果
「既得の戦果を拡充し」「長期不敗の態勢を整えつつ」と妥協的文言
*理解不能! どうしたいのか?(両論併記:日本の問題解決法?)

何が問題だったのか

13



視点9: 戦争終結機会の捕捉は?

(45,204,225,278話)

戦争の常道

戦いを有利な条件・態勢で止めるかを確立して始め、常にそれを模索・追及すること(戦う前に勝つ!)

- 1 終末構想の概要
- 2 様々な終戦工作・研究
- 3 ソ連仲介和平案の奇怪さ
- 4 幸福な(?)終戦を迎えられたのは?

14

鹿児島郷友会



視点10: ドクトリン開発等柔軟性は

鹿児島郷友会

- 1 空母機動部隊の創設と運用(262話)
- 2 島嶼を巡る戦い
- 3 大艦巨砲主義からの転換(19話)
- 4 航空部隊の協同、統一指揮、独立(279話)
- 5 基地航空部隊の活用(116話)
- 6 空挺部隊の挺進行動(57話)
- 7 潜水艦の運用について
- 8 戦略爆撃(307話)
- 9 渡洋上陸作戦

- ◎ 日本の発想力は是とするも、実現力には日米の差を感じる。
- ◎ 大規模組織化・システム化の差

15



視点11: 日本の軍事組織の弱点は?

鹿児島郷友会

軍事組織のみだろうか?

- 1 作戦偏重主義 ⇔ 情報軽視、兵站軽視
攻勢・攻撃優先、艦隊撃滅優先⇔作戦目的の喪失
(177話 長蛇を逃したり!)
- 2 現場追認、現地部隊の暴走を止め得ず
- 3 人事:学歴主義、温情主義、積極果敢推奨
戦時抜擢や実績主義なし⇔実績主義、抜擢人事
- 4 強硬論や声望大なる者に引き摺られる傾向大
- 5 攻勢優先主義、精神主義
- 6 科学技術の活用等

16



視点12: 陸海軍の対立解消し得ず

鹿児島郷友会

(94話、205話、277話、310話)

- 1 統帥組織上の問題:陸海軍の対立を仲裁・調停しうるのは天皇のみ
- 2 陸主海従への不満の鬱積・反発
- 3 興味と関心の差が体質化(陸:人、国家 海:技術や艦艇)
- 4 国家予算獲得対立
- 5 仮想敵国の相違
- 6 出陣準備と動員、戦争決意の陸軍・決意なき海軍
- 7 建軍の範とした国の差、建軍の経緯の差
- 8 陸軍の政治化、反政治的体質の海軍
- 9 陸軍の暴走を抑止するのが海軍との意識
- 10 現地レベルの協同は比較的良好だが、国家レベルでは相互不信
- 11 国策の方向性を巡る対立
- 12 親独派の多い陸軍と冷ややかな海軍
- 13 陸の長州vs 海の薩摩 の暗闘?

17



視点13: 政略(軍事力以外の分野)は?

鹿児島郷友会

- 総動員体制(国家総力戦体制) (297話)
- 大東亜共栄圏構想(298話)
- 国際情勢分析と軍事力以外の力の活用
関係国への働き掛け 蒋介石に比すれば絶無
(11話 宋美齡、270話 蒋介石、292話 実はソ連と戦っていた)
謀略放送 効果の程は不明なるも
特務機関を作戦に寄与させることを目的に運用したのだが、
- * 軍政は適切だったのか
現地の実情にマッチング? 軍事的要求が大?
- * 軍事が外交をリード
軍の政治化 (95話 帝国陸軍は何故政治化したのか?)

18

視点14:国家のリーダー

鹿児島郷友会

- 能吏は育てられても、リーダーは育てられない日本の風土
治世(平時)の能臣、乱世の雄
リーダーを必要としない日本社会 (平穏な農耕社会)か?
- 日本にヒッター・ムッソリーニ・スターリンなく、
ルーズベルトもチャーチルも居ない。
- リーダー不在でも国策が自然に決まる。
マスコミ、大衆(世論)、軍部、政治家が自然にある方向に
収斂していく不可思議(同調圧力)
- **大所・高所からの判断が出来ぬ体質**
和の集団、集団主義
- リーダーは育てられるか、育てるには
- 何に学ぶか 歴史に学ぶ、自学研鑽、修羅場を体験

3 日本の敗因等総括

鹿児島郷友会

- ① 日本人は戦略的分析・思考が苦手? リアリティに!
- ② リーダーシップに難
- ③ 大部隊の戦略に過誤多し、第一線部隊は勇戦敢闘
- ④ マ元帥回顧録 日本の将校は上級ほど質が落ちる!
- ⑤ **日本の意思決定法は問題**(312話etc)
(徹底的議論せず、両論併記、文言妥協、問題の先送り、
玉虫色決着、強硬論や権威ある者や声望大なる者に
引き摺られる傾向大、原理・原則を振りかざす傾向大)
- ⑥ 米国に追い詰められ、蒋介石にしてやられた感あるも、
ミスや誤判断も多々
- ⑦ 日本(人)の弱点露頭
(日本のシステムの弱点は正、集団主義、温情主義
ドラスティックな改革至難、権威主義、組織優先)
* **動き始めた歯車は止められないのか?**
* **日本(人)は優秀だし、弱点克服により飛躍可能**
(自信を持つべし!)
20

4 日本再生の為に

鹿児島郷友会

- 1 視点1から14で述べた通り多くの弱点あり
これを如何に克服するかが問われている。
(再生の第一歩=己を知る!)
- 2 本戦争にかかる日本国としての国史の確立
呼称問題、意義、侵略論からの脱却
- 3 自信と誇りを取り戻す
- 4 戦争責任は誰が引き受けるのか?
- 5 若者に対する現代史の教育
- 6 戦没者の慰霊・顕彰等(国としての責務再確認)
全国戦没者追悼式のみか、靖国神社の位置付け明確化
天皇陛下の御親拝
21

5 大東亜慰霊協

鹿児島郷友会

- ◎ 戦没者崇敬に関する思想の昂揚、大東亜戦争における
全戦没者の慰霊事業の永続⇒健全国政運営
- ◎ 事業
戦没者崇敬思想 広報誌、HP
戦没者慰霊事業 合同慰霊祭(7月、靖国神社)
遺骨収容事業への協力等 傘下団体からの参加
- ◎ 平成17年創設
会長:
- ◎ 正会員団体 39、特別会員団体 16
個人会員 賛助会員、賛助特別会員
- ◎ 事務所 千代田区飯田橋
- ◎ HP <https://www.ireikyou.com/> 22

遺骨収容事業の概要

鹿児島郷友会

① 海外戦没者概数	2,400,000
② 収容遺骨概数	1,277,000
③ 未収容遺骨概数	1,123,000
④ 相手国の事情により収容困難の内訳	遺族会、戦友会、慰霊協等が 会員として参加 ・沖縄(未収容 01万/18.8万) 民間ボランティア (JYMA等) ・硫黄島(未収容 1.1万/2.1万) 年4回 慰霊協からは各回2名参加 http://yamateru.stars.ne.jp/oriori288.pdf http://yamateru.stars.ne.jp/ioujima11.pdf
⑤ 収容可能な遺骨概数(最大)	約59万柱

23

最後に一言

鹿児島郷友会

- ◎ **日本が自主的・主導的に大東亜戦争を主導したのであれば、
斯くまでも無様な戦争にはならなかったのではないかと考える。
日本に主導権なく、追い詰められ、十分な態勢も採りえない
状況下で、戦争を遂行しなければならなかったのだと確言できる。
とは云え、だからこそ日本・日本人の弱点が顕著に
現れたので はないかとも考える。**
- ◎ 軍事指導者の苦悩と決意(121話)
『戦わざれば亡国と政府は判断・・戦うもまた亡国につながるやもしれぬ・・しかし、戦わずして国滅びた場合は魂まで失った真の亡国である。然して、最後の兵まで戦うことになってのみ、死中に活路を見出しうるであろう。戦って、よしんば勝たずとも、護国に徹した日本精神さえ残れば、我らの子孫は再三再起するだろう。そしていったん戦争と決定せられた場合、我ら軍人はただただ大命一下戦いに赴くのみである』
(永野修身軍令部総長 1941/11/1 大本営政府連絡会議後の挨拶)
24